
平成 24 年 12月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～



岐阜県農政部農業経営課

平成24年12月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

岐阜農林 ■ アスパラガス 実証展示ほ場の簡易雨よけハウスの耐雪性確認

農業普及課では、アスパラガスで低コスト簡易雨よけハウスの実証ほを設置している。この雨よけハウスは、降雪時に天井ビニールを巻き上げ、雪によるハウスの倒壊防止の実証を目的の一つとしている。

12月10日に20cm程度の積雪に見舞われたが、天井ビニールに雪が積もることなく倒壊を回避することを実証できた。

雪の心配がなくなれば、ビニールをおろしてアスパラガスを保温し、生育を促しながら3月からの出荷を目指す。



【屋根のビニールを巻き上げて倒壊を回避】

中濃農林 ■ 円空さといも 実証ほの収穫調査を実施

農業普及課では、円空さといもの除草の省力化技術を確立するため、マルチ栽培の実証ほを設置している。

実証ほでは、植付けから7月までマルチを行いその後マルチを外して追肥・土寄せを行う方法(初期マルチ区)、植付けから収穫までマルチを行う方法(全マルチ区)の試験区を設置し、マルチを行わない慣行栽培(慣行区)と比較した。12月に入って、実証ほの円空さといもが収穫期に入ったため、単収等の収穫調査を行い、技術の検証を行った。

その結果、作業時間は、慣行区では10aあたりで18～36時間かかる畝上の除草作業が、マルチの設置では必要が無く、大幅に省力化することができた。一方、単収は、初期マルチ区で雑草を抑えるとともに追肥により適正な樹勢を確保できたため、最も高い単収であった。また、全マルチ区の単収も慣行区と比べ高かった。以上のことから、初期マルチ区、全マルチ区とも普及性は高いと考えられた。

農業普及課では、この結果を栽培研修会などで生産者へ報告し、マルチを設置する省力栽培を普及していきたい。

恵那農林 ■ クリ クリの凍害抑制技術～株ゆるめ処理実証ほ現地研修～

恵那地域では、春の凍害で幼木が枯死する被害が多発して問題となっている。幼木の枯死は、樹内の水分が凍結することが原因と考えられている。兵庫県からは、「断根処理(株ゆるめ)」を行い過度な水分吸収を抑えることが、凍害に有効であると発表されている。

そこで、東美濃栗振興協議会では、凍害対策を速やかに確立するため、「断根処理」の実施を検討することとした。

12月13日に断根処理方法を学ぶため兵庫県農林水産技術総合センターから講師を招き、現地研修を間ノ根観光栗園(中津川市中津川)で行った。

研修では、最初に農業普及課から凍害発生状況と対策について説明を行った。その後講師から重機による断根処理方法の説明と実演が行われ、参加者が実習を行なった。実習した生産者からは、「力の入れ具合が難しそうだが自分で挑戦したい!」といった声が聞かれるなど、前向きな意見が聞かれた。

同協議会では、今年2箇所の実証ほを設置し、効果を検証することとした。

農業普及課は、実証ほで断根処理による吸水の状況を把握するとともに、凍害発生の有無について関係機関と連携し確認を行うこととしている。



【重機で断根処理を実施】

戦略的な流通・販売

東濃農林 ■ きなあた瑞浪 野菜づくり塾閉講式

J Aとうと主催で開催されてきた野菜づくり塾の閉講式が12月20日に開催された。

野菜づくり塾は、昨年6月にオープンした直売所「きなあた瑞浪」への出荷者の掘り起こしと出荷量の増加を目的に開催され、新規栽培者を含む30名が受講した。6月26日から12月20日までの間に、直売所で人気の高いトウモロコシとブロッコリーの2品目を対象に6回の講義・実習・視察を実施してきた。講義では、農業普及課から指導を行うとともに、種苗メーカーや他地域直売所の視察を行うなど、栽培技術とともに荷姿や品質等も研修した。農業普及課では、関係機関と連携しながら企画段階から開催の支援を行ってきた。その結果、高品質のトウモロコシとブロッコリーが、「きなあた瑞浪」へ出荷され、好評であった。

閉講式修了後、きなあた瑞浪出荷者協議会の手導で、春先の出荷野菜の安定を目指した春野菜研修会が開催され、約60名が種苗メーカーの担当者等からの被覆資材を活用した早出し技術や品種の紹介について熱心に受講した。



【野菜づくり塾閉講式】

売れる農畜産物づくり

揖斐農林 ■ かき 袋掛け富有柿の出荷始まる

大野町柿振興会では、生産者が柿を適正な規格で出荷するため、12月8日に袋掛け富有柿の目揃会を開催した。12月12日からは、昨年より3日ほど遅れて袋掛け富有柿の出荷が始まった。

また、袋掛け富有柿の中から一つ一つ丁寧に厳しい選果を行い、果重(350g以上)・糖度(18度以上)・果色(CC.7以上)の果実を「果宝柿」として出荷した。今年は順調に生育していたが、収穫直前に降雪とその後の低温により、多くの袋掛け富有柿が、凍症による被害を受け出荷量が減少した。

農業普及課では、果宝柿の糖度調査を実施するなど「果宝柿」の選果の支援を行うとともに、単価の高い袋掛け富有柿を生産者が安定して出荷し生産意欲が向上するよう、間伐の推進や被袋時期の情報提供等の栽培技術支援を行っている。



【厳選される果宝柿】

郡上農林 ■ 水稻 郡上市農業振興大会での発表

12月15日に郡上市農業振興協議会が、美並町の日本まん真ん中センターで郡上市農業振興大会を開催した。

「守り！育て！攻める！郡上の農業」をテーマとして、農業振興事例発表、鳥獣害被害対策報告、基調講演が行われ、市内生産者等約400名が出席した。

農業普及課からは、「水稻の品質向上への取組み」と題して、近年の水稻品質低下が、カメムシの斑点米及び高温による未熟粒が原因である点を指摘し、実証の結果に基づき対策を説明した。具体的には、カメムシ対策では、カメムシの居場所をなくすため、畝畔除草を防草シート等により徹底する等説明した。一方、高温対策では、



【映像を用いて説明】

一方、高温対策では、

可茂農林 ■ 夏秋トマト 美濃白川トマト部会反省会開催

12月12日に美濃白川夏秋トマト部会が反省会を開催した。反省会の第1部では、栽培研修が行われた。今年度は、目標である「単収9トン」を達成した。農業普及課からは、今年度の収量増加が、土壌診断に基づく施肥など改善の取組成果であることを示して生産者へ認識してもらい、次年度の栽培へ反映できるように助言指導した。

また、第2部では、「規模拡大」と「新規栽培者増加」について、年齢や性別ごとに改善策を出し合ってもらった。

今回の課題を元に地域全体で戦略を練っていく。



【反省会で討議】

飛騨農林 ■ 飛騨トマト 全体研修会開催

12月3日に飛騨野菜出荷組合トマト部会が会員を対象とした飛騨トマト全体研修会を開催した。

農業普及課では、飛騨トマトプロジェクトの一つである「トマト葉柄中硝酸イオン濃度測定による単収向上」について発表するとともに、今年度被害が増加し、次年度に向けて最大の課題である「土壌病害対策」についての発表を行った。

この他にも、農業普及課では、農薬の効果的使用かつ安全使用をさらに推進する「平成25年度飛騨トマト部会推奨農薬の提案」や各地区の単収増加に向けた研究活動（ローカルプロジェクト）に対する資料作成を支援した。



【トマト全体研修会の様子】

農業経営課 ■ トマト トマト独立ポット耕栽培検討会議を開催

トマト独立ポット耕栽培システムは、県農業技術センターで開発され、現在、農業参入を図る企業（法人）や新規就農者を中心に導入が進み、県下各地に普及しつつある。

これから厳寒期を迎えるにあたり、今後の草勢管理や養液管理等の適切な技術定着を図るため、12月13日に農林事務所農業普及課の普及指導員、農業技術センター研究員によるトマト独立ポット耕栽培検討会を開催した。当日は、優良生産者や新規栽培者のハウスを巡回し、生産者ごとの草勢や管理方法の現状等を確認するとともに、今後の指導事項について検討した。

今後も季節の変わり目ごとに検討を重ねて、指導力の向上や適切な管理技術の定着を推進していく。

多様な担い手の育成・確保

西濃農林 ■ 大垣養老高校生 管内農業の現地巡回学習会を開催

12月6日に、農業普及課では、西濃地域農業改良普及推進協議会との共催で、高校生を対象とした管内農業の現地巡回学習会を開催した。農業の現状と課題を理解することにより、地域農業への興味・関心を一層高め、農業の担い手育成・確保に資することを目的に開催し、大垣養老高校の生徒27名が参加した。

管内6ヶ所の生産現場で、花き、野菜、水田作、酪農経営等の状況を見聞きしてもらい、農業の理解を深めることができた。



【花き温室での視察】

下呂農林■人・農地プラン 「人・農地プラン」作成検討会を開催

12月〇日に下呂市が、上原地区門和佐地域の「人・農地プラン(案)」を作成し、その検討会を開催したため、農業普及課長が委員として出席した。

門和佐地域は、集落をまたいで水稲経営を行う機械化営農組合があることや、複数の若手農家がほうれんそう栽培を行っている地域であるため、これらの経営体を核として地域活性化を図るプランとなっている。

会議では案を基に議論を行い、原案どおり採択された。

今後は、市、JA、農林事務所等が協力し合いながら、このプランの遂行と更新を実施していく。



【作成検討会風景】